新潟県立看護大学図書館

# Library Newsletter

2021.11 No.45

Contents

・「光陰矢の如し」－事の始まりは図書館から－ ― P１
・お薦め図書の紹介 ― P２
・「図書館のちからプロジェクト」活動紹介 ― P３
・安心して図書館をご利用いただくために ― P４
・企画展示の紹介 ― P５
・新任図書委員／新職員のご挨拶、おすすめの一冊の紹介 ― P６

## 「光陰矢の如し」－事の始まりは図書館から－

成人・がん看護学 教授 石田 和子

上越の地に着き、早いもので十数年が過ぎました。私は、大学院博士前期・後期課程・学部生を見ていると勉強していると感心しています。自分の学生時代は、医学部を有する大学ですので図書館はありますが、卒業研究で使ったのが初めてみたいな、勉強が好きな学生ではありませんでした。しかし、卒業して看護師として大学病院で勤務するようになると、大学基礎教育だけでは追い付いていけないという体験をしました。私は、血液腫瘍内科から看護師としての仕事が始まりました。臨床での看護の素晴らしく、死の淵から立ちあがり退院していく患者・辛い治療を乗り越え寛解を向かえる患者、患者を取り巻く家族、それに病棟スタッフとのかかわりは新しい発見で日々新鮮でした。同時に疾患・看護など疑問があり勉強しなくてはどうにもならないことを知りました。今でいうなら、プリセプターの先輩看護師から、勉強の時間を作るのではなく日々の業務の延長に置くことを教えていただきました。これは、「疑問」を翌日まで引きずらないということで、仕事が終わった後に図書館で調べることでした。ここから、図書館は身近な存在となり、苦にならない学び方を習得しました。臨床実践・テキスト・文献・そして実践のサイクルは学ぶことの楽しさを知りました。まだ、まだ、研究には発展しません。

私が看護師として勤務していた血液腫瘍内科病棟は、母校の実習病棟であり、学生時代に指導を受けた先生方との交流が続くこともありました。ここが、研究へのスタートとなりました。今では、当たり前に行っている治療法で「造血幹細胞移植（骨髄移植）」が始まりました。日本では名古屋赤十字病院・国立がんセンターなどが手掛けているのみで、看護師として研修を受けて行いました。このプロジェクトリーダーとなり準備から看護までマニュアル作り実施するという体験をし、骨髄移植３人目の患者の退院の後に疑問が生じました。治療費が保険医療を含めて１人あたり五百万円（患者負担額）そして、治療の合併症で日常生活もままならい患者、これでいいのか、看護師にできることはないのかという疑問、これがリサーチクエスチョンでした。退院した患者３人にインタビューをして質的に分析する研究に着手しました。文献検討し研究方法など研究計画書を作成しました。研究方法、データ収集、分析など実習に来ている保健学科の先生（のちに大学院博士前期・後期の指導教授です）に相談し研究を始めました。その先生の指導する前提条件が「研究指導はするが学会発表だけではだめで、必ず紀要で論文にすること」と約束をし、指導を受けました。この研究は、看護部院内研究で発表し、日本造血幹細胞移植学会で発表することができました。ビギナーズラックという言葉は知っていました。この学会では一般演題は原則示説発表で、優秀な研究20件が口頭発表となるものですが、初めてで口頭発表でした。大きな舞台で発表すること、研究での発見、この結果が現場に変化を作るという体験が研究の素晴らしさと楽しさ、感動とワクワク感を知ることできました。課題であった論文も先生の指導を受け書くことができ、紀要だったので提出した論文への査読後指導があり多くのことを学ぶことができました。大学院生になるまで、毎年、臨床で研究を紀要に発表していました。ここから図書館、研究の魅力を発見し「研究ができる臨床看護師を目指す」という目標をつくり、看護師として働きながら大学院博士前期・後期課程に進学し本格的な研究がスタートしました。

学ぶことは時間が多くあるからではなく、知りたいという好奇心、そして研究へ協力してくださった方々が原動力となり、臨床実践の課題を文献や本などから探求していくことだと思います。そして、良き指導者に巡り合うことも研究を楽しみながら進めていける秘訣かも知れません。知り合いという興味・関心から本や文献を読むことをお勧めします。

# お薦め図書の紹介

## 「不思議なレストラン
### 心病む人たちとこの街で暮らしたい　クッキングハウス物語」

松浦　幸子[著]　教育史料出版会　1997年

老年看護学 助教　**大口　洋子**

表紙カバーには人が集まり、料理を提供している人、叫んでいる人、できあがった料理の品々の手書きの絵があり、裏表紙はお店の見取り図がかかれています。そして、タイトルが「不思議なレストラン」です。何故不思議なのかな？　とページをめくると「おいしくて、なんだかホッとして、思わず笑いだしてしまう店員の多い『クッキングハウス』は、建前は捨てて自分らしく本音で生きていって大丈夫だよ、と安心感をプレゼントしてくれる“不思議なレストラン”なのだ」とあります。この本はクッキングハウスをオープンして10年後に出版された実話です。

著者の松浦幸子さんは新潟県の栃尾市出身で、息子さんの登校拒否がきっかけとなり、学校の教師もカウンセラーもまわり中が「母親が悪い」と言われ、夫からも息子を幼いころからよそに預けていたからだと言って責められました。その中で実母だけが私と息子の苦しみを自分で引き受け、ひたすらお地蔵さまに祈っていてくれたこと、母から「どうか、幸子に心のゆとりが戻りますように」とお地蔵さまにひざまずいて祈っていることを知ります。学校信仰にとりつかれていた自分に気づき、周囲の「登校拒否を考える会」などに関わる親たちと出会うことになり、その後、息子さんの本来のエネルギーを取り戻したことがきっかけで、32歳の時に東京YWCA専門学校社会福祉科に入学します。ここでの実習先の精神科病院で医療と福祉の連携を学び運命的な出会いがありました。その出会いによって、地域での居場所づくりにと、クッキングハウスにつながっていきます。

クッキングハウスの設立は1987年に、東京・調布市の一隅に十二畳のワンルームを借りて、心病む人たちとこの街で一緒に暮らそうよ、と食事づくりで交流する場を開いたのです。当時、食事づくりは「おいしいね」といいあうところからだれもが気持ちよくコミュニケーションできる。だれにでもわかりやすく、参加しやすいところとなり、一緒に料理をしながらぽつりぽつりと話しているうちに、だんだん元気になっていったそうです。

５年後には、参加者が増えたことやもっと積極的な社会参加をしたいと、自然派・家庭料理のレストランを開きます。安全で素朴で心をこめて作る料理は市民の方にも喜ばれるようになるにつれ「私たちも人の役に立ち喜ばせることができる」と生きる自信がわき、自分の思いを表現する心のときめきを感じるようになり、さらに、下手でもよい、心病む側からの優しい文化を創っていきたいと夢をもつようになっていったことが語られています。

表紙カバーの裏につづられているメッセージです。

だれだって人生の途中で心が疲れたり、
病気になることがあるはず。
心を病むことは自分とはかけ離れた世界のことではなく、隣にあることだ。
もし自分の心が疲れてしまったとき、
休ませてくれる場と
そのままのあなたでいいよと
受け止めてくれる人と、
失敗してもいいよと
試してみられるチャンスがあったら、
どんなにうれしいだろう。

今から22年前、松浦さんの講演会に参加したときに購入した本です。ソーシャルワーカーとして、心病む人たちの社会復帰を支援しつづけて現在も活躍中です。2005年には精神障害者自立支援賞（リリー賞）を受賞されています。クッキングハウスは来年35周年を迎えます。「不思議なレストラン」を出版して５年後に「続・不思議なレストラン」、その後も「いくつになっても夢を描きたい」「私もひとりで暮らせる」などが出版されています。20周年には「生きてみようよ！　心の居場所で見つけた回復へのカギ」として当事者の思い・声とともに寄り添ってきた松浦さんの思いが出版されました。国の制度ができる前に心病む人たちの居場所づくりを地域の中で模索して、市民への心優しい福祉文化を発信しています。

「不思議なレストラン
心病む人たちとこの街で暮らしたい
クッキングハウス物語」

**書誌情報**

請求記号：369.28-Ma86
配架場所：棚10右側（1階）

# 「図書館のちからプロジェクト」活動紹介

地域看護学　講師　**野口　裕子**

オンラインによるブックハンティングを行いました。

図書委員会では、平成27年度より「図書館のちからプロジェクト」を実施しています。その目的は、１人でも多くの学生が書籍に触れ、対象（患者）理解という側面から、学生が看護職として社会に出るための基礎作りに貢献することです。

「図書館のちからプロジェクト」の活動のひとつに学生ブックハンティングがあります。

この学生ブックハンティングとは、学生自身が書店に赴き選んだ本を実際に図書館に置く活動を実施しています。令和２年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、オンラインによるブックハンティングを行いました。本学図書館に所蔵され、多くの学生に読んでもらいたい書籍をインターネットから探して選んでいただきました。そして、ＰＯＰを作成していただきました。

オンラインによるブックハンティングには、学部生３名が参加していただきました。その３名の感想をご紹介します。

自分が紹介した本を、誰かに手にとって読んでくれると思うと、なんだか嬉しい恥ずかし☆っていう気分です。どうやったらみんなに手にとってもらえるか考えながらＰＯＰを作るのも楽しかったです♪

今日はじめてブックハンティングに参加してみました。きっかけは、隣の席のお友達に誘われたことです。幅広いジャンルの中から本を選べるということだったので、少し説明書きが付いた風景写真集を何冊かお願いしてみました。図書館で勉強するときの息抜きのような感覚で読めたら楽しいだろうなと思って選んでみました。

今は、コロナ禍で、図書館で本をじっくり読んだり、自習をしたりすることはできていませんが、１日でもはやく今までのように気がねなく図書館を利用できるようになるといいなと思っています。また、他の参加者の方が選んだ本を読んでみて、今まで知らなかった世界に足をふみ入れてみるのも楽しそうだなと思います。

今回同級生に誘われて初めて参加しました。予算内で好きな本を選んで良いということで、普段は手の届かない値段の本や、いろんな人に読んでほしいと思った本を選書させていただきました。この先何年も図書館に置いていただいて、多くの人に読んでもらえたら嬉しいです。今回はオンラインでの選書だったため、様々な書店のサイトのレビューを参考にしました。誰かの感想を見て選ぶ私もまた誰かのおすすめの影響を受けているのだとしみじみ感じました。こうして私のおすすめも誰かに伝われば良いなと思うばかりです。ＰＯＰの作成にあたっては、家にある本の帯を見たり、店のＰＯＰカードを参考にしたりして作成しました。デザインや言葉で『伝える』ということはこうも難しいことなのかと実感しました。今後このような機会があればまたチャレンジしてみたいと思います。参加したことで他の人がどんな本を選んだのかが気になりました。参考書だけでなく、ブックハンティングのシールが貼られた本を探して積極的に読んでいこうと思います。

図書館への出入りには、手続き等がありますが、是非図書館に来ていただき、書籍を手に取って頂ければ幸いです。

# 安心して図書館をご利用いただくために

## 学内者限定Webサービス

新潟県立看護大学図書館では、コロナ禍でも利用者に安心して図書館をご利用いただくためにWebサービスの拡充や文献の郵送サービスを行っています。

### ＜Webサービスを申請するとできること＞

#### ①図書の取り置き

これまでは貸出中の図書にのみ図書館HPから予約を入れることができましたが、貸出禁止資料を除くすべての資料に予約が入れられるよう変更いたしました。滞在時間短縮のため、利用したい資料が決まっている際は図書館HPから事前に予約を入れていただくと、申込の翌日から４日間カウンターで取り置きいたしますのですぐに資料を借りることができます。

#### ②貸出資料の期間延長

借りている資料は次に予約が入っていなければ１回まで延長することができます。HPの利用状況照会からお申し込みください。

#### ③文献の郵送サービス

来館して文献を受け取ることが困難な場合は、ご自宅に郵送することもできます。文献依頼フォームの備考欄に郵送希望であること、送付先の住所を明記の上依頼してください。文献複写料の支払いは同封する請求書に記載されている銀行口座にお振り込みいただきます（別途振込手数料がかかる場合があります）。

上記サービスをご利用いただくためには事前にWebサービスの登録をし、パスワードを設定していただく必要があります。来館して申請していただくか、下記の必要事項を明記の上、図書館メールアドレスまで送付してください。

・学籍番号
・氏名
・学内メールアドレス
・希望するパスワード
（半角英数字12文字まで）

send

**図書館メールアドレス**
copytosyo@niigata-cn.ac.jp

# 企画展示

## 「看護大生のための スタートブック」
（2021年３月16日～５月31日）

新型コロナウイルス感染症対策のため、例年通りの利用ガイダンス、新入生歓迎会による図書の紹介ができないことから、新入生向けのブックリストを作成し、展示の紹介と合わせて利用ガイダンス時に配布しました。

## 「上越教育大学附属図書館との 蔵書交換展示会」
（2021年10月４日～11月30日）

上越教育大学附属図書館との蔵書交換展示会を毎年約２ヶ月間行なっています。

互いの学生に図書を紹介し、相互交流の促進を図ることを目的として、100冊の蔵書を交換し展示します。

# 人事往来

## 新任図書委員ご挨拶

### 成人・がん看護学　教授　石田　和子

４月より新しく図書委員会に参加させていただいております。私にとっての図書館は安心できる場所でした。看護師として働き始めたときから「疑問？」が生じると職場の横にある図書館へ行き解決していくという私流の学び方でした。図書館を充実させていくため委員会構成メンバーの方々と力を合わせて活動していきます。どうぞよろしくお願いします。

### 老年看護学　助教　大口　洋子

はじめまして、今年４月より図書委員になりました、助教の大口洋子です。図書委員として図書館の充実・発展のために、微力ですが精一杯努めたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 新図書館職員

### 山口恵理子

昨年12月より図書館でお世話になっております。大学図書館業務は初めてですが、利用者の皆さまのお役に立てるよう頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 安原　孝実

４月より、図書館でお世話になっております。皆さまが快適に図書館をご利用することができますよう、努力したいと思います。よろしくお願い申し上げます。

### 髙舘加代子

７月よりお世話になっております。大好きな本に囲まれながら楽しく仕事をさせていただいております。まだまだ未熟ではありますが、皆さんのお力になれるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

# おすすめの一冊

当館では図書館ホームページにて、本学教員が学生におすすめする図書を紹介しています。
また図書館内階段下展示コーナーで紹介文とともに図書を展示しています。
紹介図書は随時募集しておりますので、おすすめしたい図書がありましたら是非ご紹介ください。

## ＜今年度ご紹介いただいた図書＞

**雪とパイナップル**

鎌田 實 著

**ライオンのおやつ**

小川 糸 著

**看取り犬・文福**
**人の命に寄り添う奇跡のペット物語**

若山 三千彦 著

新潟県立看護大学図書館
*Library Newsletter*
第45号
令和3年11月発行
編集／新潟県立看護大学 図書委員会　発行／新潟県立看護大学図書館
〒943-0147　上越市新南町240番地　TEL：025-526-1169
URL：http://lib.niigata-cn.ac.jp/　E-mail:tosyo@niigata-cn.ac.jp